

タイトル: 日本のITSの最新状況

講演者: ITS Japan 天野専務理事

ITS は、情報通信技術や電子制御技術を交通分野に活用して交通事故防止、状態対策、移動の利便性向上を図る目的で 1990 年代に活発化した。様々なシステムが実用化され効果を上げてきた。これからは、技術革新の成果を最大限に活用しながら、交通関連の諸課題の解決から視野を広げて、社会の根幹に関わる課題に目を向け、その解決に資する交通システムを提供しなければならない。

ITS の重要テーマとして、自動運転と交通ビッグデータの活用が関連活動の焦点になっている。2013 年に東京で開催した ITS 世界会議で、主催者としてこの二つを中心テーマに取り上げたことが契機になった。それに続く 2014 年のデトロイト世界会議、2015 年のボルドー世界会議へと引き継がれ、そして、今年のメルボルン世界会議にも継承される見込みとなっている。

自動運転には、社会に大きな変革をもたらす潜在力があるが、実用化に向けて技術開発以外にも様々な課題がある。根底にあるのは、人が知能を持った機械にどう向き合うのか、という哲学的命題である。これは、ロボッや機械学習など Artificial Intelligence (AI) を活用したビッグデータ処理にも通ずるものである。法律や制度設計の観点からの検討が進められているが、結局は市民が判断するものである。合理的選択肢と判断材料となるエビデンスを提供するのが我々の使命である。このように、加速度的に進む技術革新が分水嶺を越え、社会のあり方と一体で新技術がもたらす潜在力と課題解決に向けたロードマップを描かなければならない。

私たちは、少子高齢化対策、エネルギー・環境対応、持続的経済発展、安全・安心の確保、など大きな社会的課題に直面し、それが顕在化、深刻化しつつある。交通安全や円滑化は重要であり続けるが、社会の根幹を揺るがす問題に目を向けて交通を見つめることが求められている。今後は、既に述べたような技術革新の潜在力を活かして、社会的課題の解決に貢献することが期待される。

ITS Japan では、次期中期計画(2016-2020)の取りまとめにあたり、次のような整理を行った。すなわち、社会的課題解決のための社会実装の「現場」を類型化し、そこで提供すべき「価値」を洗い出す。その価値をもたらす「サービス」と実現のための「技術的手段」、そして、それらを支える「基盤」を描いている。

検討の前提として、社会実装の現場となる具体的シーンを共有し努力を統合することが重要である。自動運転やビッグデータも、どのような用途のために、どこに注力すべきか浮き彫りになってくる。国の「新たな国土のグランドデザイン 2050」には、約 5,000 の「小さな拠点」、60-70 の「高次地域都市連合」が描かれており、国土形成計画の前提になった。また、東日本大震災では自助・互助・共助の重要性を強く認識した。平常時でも、財政難と人手不足から生活を支える機能を全て行政サービスや専門業者に依存することができない。自分たちの生活を自分たちで支えるコミュニティを作り、高齢者が生涯現役で社会参加できる社会のためのモビリティを提供しなければならない。

これからの ITS の取り組みでは、先進技術に磨きをかけ実用化のために社会の枠組みにも変革をもたらすとともに、現場を意識し現場の担い手と一体になった取り組みが必要である。